

お客さまこんにちは！お元気ですか？天候が目まぐるしく変わり、また朝と夜の気温差も大きくなるなど、服装に少々困る時節となってきました。この気温差で体調を崩しがちになるのでお気を付け下さいね。気象庁の長期予報によると、気温は十一月までは平年並みかやや高く、十二月になると平年より低めの予想がされているようです。

ところでこの時期の天候を「女心と秋の空」などと言われたりもしていますが、もとは「男心と秋の空」で、このことわざは室町時代に端を発し、「女心と」は江戸、明治時代に広まり始めたようです。そして「女心」は「コロコロと気分が変わりやすい」こと「男心」は「移り気」であることを秋の変わりやすい天候になぞらえているとか。

どちらも心が移りやすいことを表してはいますが、その意味合いは少し違うようです。

この他にも秋の代表的なことわざに「天高く馬肥ゆる秋」「秋茄子は嫁に食わずな」「秋の日は釣瓶落とし」などありますが、季節ごとの情緒あふれることわざや風流な言い回しが数えきれないほどあるにも関わらず、私自身もどれほど知っているのか？と問われれば、胸を張って「任せなさい！」とは言えないものの、残念ながら継承されずに埋もれてしまった言葉が沢山あると思います。また言葉自体は知っていても、その意味を取り違えているためにおかしな使い方となっていたり、言い間違いをしてしまっていることも多くあるようです。けれど、例えば「的を射る」が正しいはずが、いつしか「的を得る」でも良い、といったふうになってしまっている言葉もあり、時代と共に変わってきていることも確かです。またいつの時代でも若者が造り出した言葉が、最初は「今の若者は」とまゆを顰められていたのいつしか流行語となり、老若男女を問わず使われてきています。それだけ影響力は強いのでしょうか。

ただ情報に溢れ、伝達手段が数多くある今の時代に生み出された言葉より、伝える手段が乏しい時代に生み出された言葉の持つ力のほうがより強く、行間に込められた想いが伝わり、心に響くように思います。

全ての若い世代の人たちがそうではありませんが、中にはとても理解ができない暗号のような言葉や、お世辞にも綺麗とは言えない言葉で会話をしているのを耳にすると、なんとも物悲しい気分になります。昔、母に「言葉の乱れは心の乱れだ」と厳しく諫められたことを思い出します。その時は心の中で反発したりもしましたが、今は本当にその通りだと思えますし、そういうことをしっかりと教えてくれた母に感謝しています。

恐らく世界でも類を見ない、モノやコト、そして心模様を様々な言の葉で表すことができる日本語を、もう少し大切にしたい。それが自己肯定につながり、自国を大切に思うことにつながる。そのように思います。

「物言えば唇寒し秋の風」余計なお世話だ！と言われるかしら？

信濃川堤防ウォーキング

生産部 資材 島貴 修

スタート地点は道の駅「新潟ふるさと村」。ゴールは信濃川堤防上の歩行者・自転車専用道路を下流に8km歩いた萬代橋。寄り道も道草も無制限のマイペースウォーキングの始まり。

ルートは右岸（東新潟）と左岸（西新潟）があるが、右岸を歩くことが多い。スタート地点が左岸なので1.5km程歩いてから8号線新潟バイパスの橋を渡る。6車線の自動車専用道路だが橋には歩道があり、近道として利用している。車の大群が80km/h以上で爆走しているすぐ横を歩く。右岸では県道を少し歩き鳥屋野小学校を過ぎたら再び堤防の上に戻る。風景の左側は信濃川の水面で視界が広がり、遠く正面には県庁が見える。秋晴れの空がとても大きく感じる。

ルートを外れてコンビニに寄り道するのも楽しみの一つ。給水・給甘味ステーションとして。途中の昭和大桥の手前に新潟大学漕艇部の艇庫があり、運が良ければ練習風景を眺めることができる。練習だけでなくボート運搬の作業にも注目。艇庫と信濃川の間に架かるアーチ橋をボートを背負ってよいしょよいしょと上り下りするなんて、見ているだけでも大変だと思う。特に練習後に艇庫までボートを戻す時は。でも部員にとっては筋トシかもしれない。

そして河口から3番目の橋「八千代橋」の下を通り過ぎると見えてくるのが、新潟市のランドマーク的存在の高層ビル「朱鷺メッセ」と、それを背景にしたゴールの萬代橋。

ゴールしたら次は昼食で先は「バスセンターのカレー」。テレビで全国的に有名になる前から食べていた。その味は8km歩いて食べに行くだけの価値はあり、左手にカレーの皿を持ちスプーンで黙々と食べる。満腹になりバスセンター内のベンチで休憩したら、さあ帰ろう。

往路があれば復路もある。復路は路線バスのコースと平行した左岸を歩いており、疲れたらバスに乗れるから楽ちん。もっと楽なのは水上バス。万代橋の近くから信濃川ウォーターシャトルに乗れば、新潟ふるさと村までの信濃川クルーズを楽しめる。とは言ってもウォーキングの原点に返って、復路も8km歩くことをしっかりと心掛けています。その時の気分次第だが。

■「ノーマライゼーションって？」

監査役 小林 淳

昨年4月に福祉関係の専門学校に入学しました。只今、現役の学生です。

仕事を持っているので通信制ですが、かねてからの希望でした。

通信制とはいえ、何回かスクーリングがあり、自分の子供ほど歳の離れた学生達との交流を楽しみにしていたのですが、残念ながら、ここでも新型コロナウイルス感染症の影響でオンデマンド授業に変更となりました。

しかし今年3月～4月に行われた障がい者支援施設（就労継続支援B型）での実習では、特別支援学校を出た若い利用者の皆さんと、毎日一緒に作業をやり、お昼を食べ、コミュニケーションをとることができました。

話すことが苦手な女の子と筆談で会話もしました。初めての体験です。みんな一生懸命です。

彼らと出会い、障がい者が抱える問題は、一人ひとり個別であり多様で、一括りになどできない、その意味で「健常者」（あまり使いたくない言葉ですが）と全く変わらないことを実感しました。

何をもって健常者というのか？みんな違っていいし、違って当たり前。類似性で分けるのではなく、多様性で調和する。そんなことを考えながら、目下、社会福祉士を目指し、分厚いテキストに悪戦苦闘しています。

今、はまっていることは？



■【家庭菜園】

生産部設計 青木 博

私の今はまっていることは、家のベランダでの家庭菜園です。

昨年はミニトマトを栽培しました。今年はキュウリを栽培しています。ホームセンターでキュウリの苗や土、肥料を買ってプランターに植えて栽培します。

百円ショップでレタスの栽培キットも買って栽培していましたが、早々に鳥と虫に食べられて全滅してしまいましたので、今はキュウリだけです。

朝と夜に水を与え、時々栄養剤を少しだけ与えるだけですが、毎日忘れずに世話をし、実が大きくなっていく様子を見ているととても楽しいです。

昨年のミニトマト栽培の時は、ほとんど水だけ与えていましたが、あまり沢山の実は出来ませんでした。

今年のキュウリ栽培では、去年の経験を生かして水だけでなく栄養剤や卵の殻、バナナの皮などを与えてより多く実がなる様に試行錯誤しながら栽培しています。

その成果なのか、キュウリは沢山出来てとても嬉しいです。

採れたキュウリは塩をかけて食べるか、塩麹漬けにして食べています。

まだもう少しだけキュウリは栽培出来そうなので、楽しもうと思っています。

皆様も興味があるようでしたら、是非家庭菜園をしてみたいかでしょうか。

自己満足

基幹事業サポート 角田 義秋

私が初めて一眼レフカメラを手に入れたのが今から〇〇年前、一眼レフのバシヤツというシャッター音に憧れて（カメラ好きは大抵この音に憧れる）何とか手に入れたいと思っていたところ、タイミング良く保険が満期になったのでそれを資金に早速カメラ屋さんに走りました。手に入れたのが当時発売になったばかりのキヤノン AE1-P それまで持っていたのはオンボロカメラ、一眼レフを持ったから何かを撮りたくて撮りたくてしょうがない衝動にかられ、何処へ行くにもカメラを持って行きました。撮影禁止の場所でカメラを向けて注意された事も何度もあります。私が住んでいた所が横浜本牧のすぐ隣の根岸、当時本牧はアメリカ軍横須賀基地のベッドタウンになっており、広大な敷地にフェンスが張り巡らされてその中は治外法権になっていました。

ただ、年に数回イベントがありフェンスの中に一般市民が入れる事があって、日米親善盆踊り大会やアメリカンフットボールの試合などもありましたのでよくカメラを持って出かけました。私は前職で1000人程従業員のいる製油所で社内の各種イベントを20人程のメンバーで企画運営していました。社内球技大会やマラソン大会など各課対抗のスポーツイベントが多くあり、盛り上がっていました。そんな時社内で文化祭をやろうという企画が持ち上がり作品を募集しましたが、なかなか作品が集まらず運営委員も一つは出品しようという事で、私はアメリカンフットボールの写真を出品しました。当時のカメラは手ブレ防止機能もないのでピントは手動のみ、動きの速い被写体を撮る時は大変です。何枚かのアメフトの写真の中で一枚だけ3人の選手がぶつかり合って一人が空中に飛ばされた写真がピントバッチリ、一人が空中に浮いて止まっている当時のカメラとすればマグレというような写真を出品しました。これが見事入賞、この頃丁度息子が生まれた事もあって息子の写真もパチパチ撮りまくりました。その後子供の成長記録は動画のほうがいいなと思ってビデオカメラに切り替えましたが、やはり一眼レフの解像度の良さや画像の美しさに魅力を感じ、新潟に来てからは佐潟や福島潟へ行ってハクチョウや野鳥や景色その他の撮影に行くようになりました。カメラもデジタル一眼で一秒間に10コマ手ブレ防止機能付きを購入。400mm 600mmの望遠レンズを引っ提げて土曜日曜の早朝に撮影に出掛けています。こうして出掛けていると知り合いも多くなり色々な情報も入ります。変わったところでは新潟市内のある大病院の血液内科の先生と知り合いになり、写真のテクニックをアドバイスしてもらっています。同じ場所でも条件によって様が変わります、季節によって渡ってくる鳥も違います。偶然に珍しい鳥や速く飛ぶ鳥等をバッチリカメラに収めた時は自己満足に浸っています。あと数年はこんな生活が続きそうです。

セイタカ シギ



◆ちょっと豆知識◆その53「上手な値上げに関する一考察」

技術営業部 取締役部長 成田 護 (mamoru@shinyo.co.jp)

新しもの好きです。

初代プリウスが発売された時は直ぐに注文しましたし(当時40万円の補助金がつきました)、デジカメが普及し始めた本当に走りのころ、コダックのDC40なんて大きな双眼鏡くらいのサイズの製品を、給与バランス的にかなり無理して購入してイキがっていました。

マーケティングを勉強すると必ず出てくるイノベーター理論でいうところの「イノベーター」気質が強いのだと思いますが、目立ちたいというのは当然あるとして、革新的な製品を世に出した人を購入で支えたい、怖いもの見たさ、という思いも少なからずあります。

悪いことに当時より経済力の付いた今でもこの傾向は健在で、深夜・早朝にテレビで放映されている通販番組やSNSを閲覧していると出てくる広告、必要に駆られて開いたアマゾンで漏れなく出てくるお勧めなどは心が揺れてしかたありません。

かつては、新製品は本当に新製品だけでしたが、いつからか、新製品を購入すると広告等には一切触れられていない消耗品などの購入を強く勧められることが多くなってきたことに気がきました。

以前本稿(2018.10月)でも紹介した「腹筋を電気でトレーニングする器具」については、本体購入後にコールセンターから電話が来て、電極と皮膚の間に介在させる粘着テープが汚れるから定期的に交換が必要だ、2か月ごとに定期購入する設定がお得だ、とのことで定期購入を申し込みました。お得でこの価格か、というような金額でしたが、使ってみると粘着テープはそれほど汚れず、かなりの数が貯まった時点で定期購入を解除しました。

当時まだ耳にすることのなかった消耗品のサブスクにより利益を出すビジネスモデルだったのでしょう。気付いた時には少々感心したものです。

また、南東北か北関東の訛りで朴訥と語りかける社長と、演歌歌手として紹介される女性の掛け合いが怪しさ満点の某テレビ通販で、卓上クーラーをこの夏の暑さに負けて購入しました。構造的にいわゆる冷風扇というやつで、毛細管現象で吸い上げた水をファンの風で気化させて冷やす、というものです。

私どもは空調機器を扱いますが、機器の能力を確認するのに吸気温度と吐出温度の差を必ず確認します。当該卓上クーラーも到着後直ぐに能力を確認しましたが、吸気温度32℃、吐出温度32℃。ディスるわけではありませんが、能力の低い送風機能付き加湿器でした。

こちらも、スマホで申し込んだ翌日に電話が来て、購入した人は皆交換用のフィルターが欲しいとおっしゃる、本体と送ると送料分安くなるので一緒にどうですか?と純朴そうなオペレーターの女性から勧められました。どこをどう確認しても「フィルターの定期交換が必要だ」とは書いていないのに…。説明に無理が無かったので1セット購入しましたが、定期的に電話が来るのかも…、と思うと少し重い気持ちになりました。

ここで言いたいのは後出しジャンケンどころでなく、本体売上にちょっと上乘せするその努力と発想に感嘆した、ということです。

本稿を皆さんが目に見える頃は、正にお酒の値上げ真っ盛りというタイミングでしょう。製品の値上げは業種・分野に関わらず非常に難しいことですが、上述のように「ちょっとした工夫」で心理的障壁は低くなるものです。次の値上げのタイミング、ぜひ皆さんも検討してみてくださいはいかがでしょうか。

もちろん、私どももそのタイミングを虎視眈々とうかがいたいと思います。

「新洋技研からサラリーを得る傍ら、プライベートでは釣り・山菜取り等を通して自然界からもサラリー(自然の恵み)を得る筆者の春夏秋冬サイドビジネス“珍”日記」
技術営業部 坂井 将之

Vol.3 夏のサイドビジネス “鮎の友釣り”

発行日: 2022.6月・7月・9月中 場所: 新潟県村上市三面川・高根川 みおもて

最近の“夏の釣り”と言えばもっぱらこの釣り。鮎の友釣りを説明すると、生きた鮎で鮎を釣り上げる釣法・・・オトリ店で購入した生きたオトリ鮎を生きたまま仕掛けに付けて川に泳がし、釣ろうとしている野鮎の縄張り(エサとなる苔の付いた石)にオトリ鮎を侵入させます。縄張りを持った野鮎は、侵入鮎に体当たりして追い払う習性があり、その時にオトリ鮎に付けた“掛け針”に野鮎を引っかける釣法です。簡単に言えば、喧嘩っ早い野鮎に、オトリ鮎に対し喧嘩を買わせるという釣法ですかね。(笑)

キャリア4年目の今年は、三面川水系解禁日の6月25日にキャリア初の解禁日釣行。解禁日は“沢山釣れる”という話を聞いていたのでウキウキしながら実釣するもまさかのボウズ(0匹)・・・今年の釣果に暗雲が立ち込める中、7月に入り4回ほど釣行するも悪かったり、まあまあだったり・・・そんなこんなでアユ釣りハイシーズンの8月に入り、これからの好釣果を楽しみにしていた矢先、8月3日から4日にかけて新潟県北部地方に線状降水帯が発生し、三面川が流れる村上市や、その周辺の関川村、胎内市は記録的な大雨となり甚大な被害に見舞われました。その影響で8月中の三面川は濁りが酷く釣りができる状況ではありませんでしたが、9月に入り“あの豪雨”からひと月以上経つと三面川の鮎の釣果情報がSNSで流れるようになってきました。あれほど増水し濁流となった川の中、鮎はどこに潜んでいたのか・・・鮎の生命力に驚きながら9月19日に久々に実釣してきました。

本流は未だに濁りが残っていましたが、濁りの少ない流れにオトリ鮎を泳がせると即座に1匹目ゲット♪(^_)^v 鮎釣りは“循環の釣り”とも言われ、元気な野鮎を捕獲したら今度はその野鮎をオトリとして送り出し、元気な野鮎をいかに泳がせ続けられるか否かが釣果を大きく左右します。

本日の業績は実釣6時間ほどで15匹と私の実力としてはマズマズの結果。帰りに村上市内の知人に鮎をお裾分けしたら日本酒をゲット♪

鮎の塩焼とゲットした日本酒で晩酌できたのでビジネス大成功! \ (^o^)/

